

会議等結果報告書

令和5年8月21日

1. 会議名 ながさき環境県民会議総会
2. 日時 令和5年8月21日（月）14：00～15：35
3. 場所 長崎県庁行政棟1階 大会議室C
4. 出席者 34名
5. 内容

1. 開会

資源循環推進課長あいさつ

2. 議事等

(1) 委員改選及び議長等の互選について

・結果

議長 早瀬隆司長崎大学名誉教授（新）

副議長 宮原和明長崎総合科学大学名誉教授（留任）

副議長 石黒則子委員（新）

・新議長あいさつ

【承認】

(2) 幹事会及び各部会の開催報告等について

①幹事会について（宮原幹事長）（資料2）

②4R部会について（石黒4R部会長）（資料3-1、2）

③温暖化防止部会について（早瀬温暖化防止部会）（資料4-1、2）

- ・各自資料に沿って活動報告や取組状況について説明

主な質疑・意見等

なし

【承認】

(3) 「脱炭素・資源循環型経営への転換」及び「脱炭素・資源循環型ライフスタイルへの転換」のための取組等について

①「脱炭素・資源循環型経営への転換」のための取組について（資料5）

②「脱炭素・資源循環型ライフスタイルへの転換」のための取組について（資料6）

③ ながさき環境県民会議の目標設定について（資料7）

- ・資料に沿って説明

主な質疑・意見等

- (早瀬議長) 今後、市町との連携が重要になると思うが、どう考えているか？
- (事務局) 早瀬議長のご指摘のとおり、市町との連携は、今後一層重要になると考えている。
資料7の1ページ目に記載のとおり、ネットワーク会議等市町との連携体制は既にあるので、今後は既存の体制を活かしながら、市町との連携を一層強化して行きたい。
- (早瀬議長) ライフスタイルの転換など、広報が重要になると思うが、委員の皆様はどう考えているか。特にマスコミ分野。河野委員のご意見を伺いたい。
- (河野委員) 今日の会議でも話ができたが、体制があるだけでは不十分。動くことで広報の余地が出来る。活動を繰り返すことで、取材を行う可能性が出来ること留意するとよい。
- (奥村委員) 資料6のライフスタイルの転換について、「ながさきゼロカーボン12」の試行の実施内容を変更してはどうか。
試行中、10月は「エコふぁみ」アプリ関係の取組みを充てているが、現時点では「エコふぁみ」の登録者・協賛店・環境スポットが少なく、インセンティブがない。
温暖化防止センターの事業として、今から登録店舗を増やしていくが、登録まで時間を要するので、ゼロカーボンアクション12において「エコふぁみ」を取り上げるのは、12月がよいのではないか。
その代わりに、当初12月に実施予定としていた買い物、エコバッグの推奨等10月の内容を12月に持ってきた方がいいのではないか。
- (事務局) 検討する。
- (奥村委員) エコふぁみの担当者会議等について、現在、九州各県の職員が構成員になっていると思うが、自分たちも参加できないか。
個人的には、環境関係の取組みをエコふぁみに一本化したい。
ついては、エコふぁみを今後どう運営していくかの会議に参加し、意見を述べたい。アドバイザーという立場でもいい。
- (事務局) エコふぁみは、九州各県が合同で運営しているアプリであり、事務局は大分県が担っている。本件については、事務局と協議させていただく。
- (北口委員) 今年の4月、上五島に上滝建設の社員が来て、上り旗をたてて国道清掃を行っていた。このような地道な取組をしている企業がいることに感銘を受けたので、ここで報告する。
- (小泉委員) ライフスタイルの転換について、より分かりやすいたとえを使って記載してはどうか。
資料6のP8は、取組の効果が目に見えて大変よい。
ただし、一人での効果はこんなものか、とも思う。
もっとわかりやすいたとえを使って、広報に入れてはいいかがか。
- (事務局) 県民に分かりやすいように記載を工夫したい。

(修正等については、幹事会、両部会に一任する。)

【承認】